

学生の皆さんへ

学生部長 齊藤 泰治

早稲田大学では、1957年から随時、そして2001年からは毎年「学生生活調査」を実施しています。この調査は、多種多様な早大生の皆さんの学習生活や進路、課外活動の現状を捉え、その結果を基に、全ての早大生の学生生活がより一層充実するよう、大学全体で活用していくことを目的としています。

35回目に当たる今年度も、多くの学生の皆さんにご回答いただきました。ご協力いただいた皆さんには、この場を借りてお礼を申し上げます。今年度の報告書では、文系・理系に着目して、学生生活の様子を整理することにしました。その結果、本報告書からは、同じ大学でありながらも、カリキュラムやキャンパス、環境の違いによって、学生の日々の生活が実に多様であることが明らかになりました。例えば、就職活動時期と重なる今年度春学期の授業平均出席率が「80%以上」は、文系が高学年ほど少ないのに対し、理系では大幅な違いはみられません。また、将来の進路に対して行っている準備では、文系4年以上では「企業研究・就職試験対策」が半数近くで最多となっている一方、理系4年以上では「学問・研究に励む」が77%と非常に高い割合を示しています。

学生の皆さんにとっても興味深い結果が見られますので、ぜひご一読ください。

また、今年度の調査では、大学のダイバーシティ(多様性)推進への取り組みや、在学中の留学、経済状況に関する設問も加えています。大学のダイバーシティについて、「十分整っていると思う」「どちらかといえば整っていると思う」と回答した学部学生は78.5%でした。創立150年に向けた中長期計画「Waseda Vision 150」にもあるとおり、早稲田大学では国籍・性別(男女に限らない多様な性)・障がいの有無などにかかわらず、多様な人々が自然に共存できるアカデミック・コミュニティづくりを進めています。学生がお互いの多様性を理解することで、多様な人々が共存できるアカデミック・コミュニティづくりの一助になることを願っています。

2016年度学生生活調査については、設問策定・回答集計・報告書作成など、嶋崎尚子文学学術院教授に全面的にご協力・監修いただきました。ご多忙の中、快くお引き受けいただきました嶋崎教授には、心より感謝申し上げます。

2016年10月24日

本報告書の構成について

P3では調査の概要を一覧表にまとめています。P4～P16は全66問にわたる設問を分析した結果を、1. 授業への参加、教員との関係、2. 卒業後の進路、3. 心身の健康、4. 留学・異文化交流、5. 経済状況、6. 進学理由・満足度、7. 大学院学生のキャリア・研究環境・経済状況、以上7節に分けて特徴をまとめています。